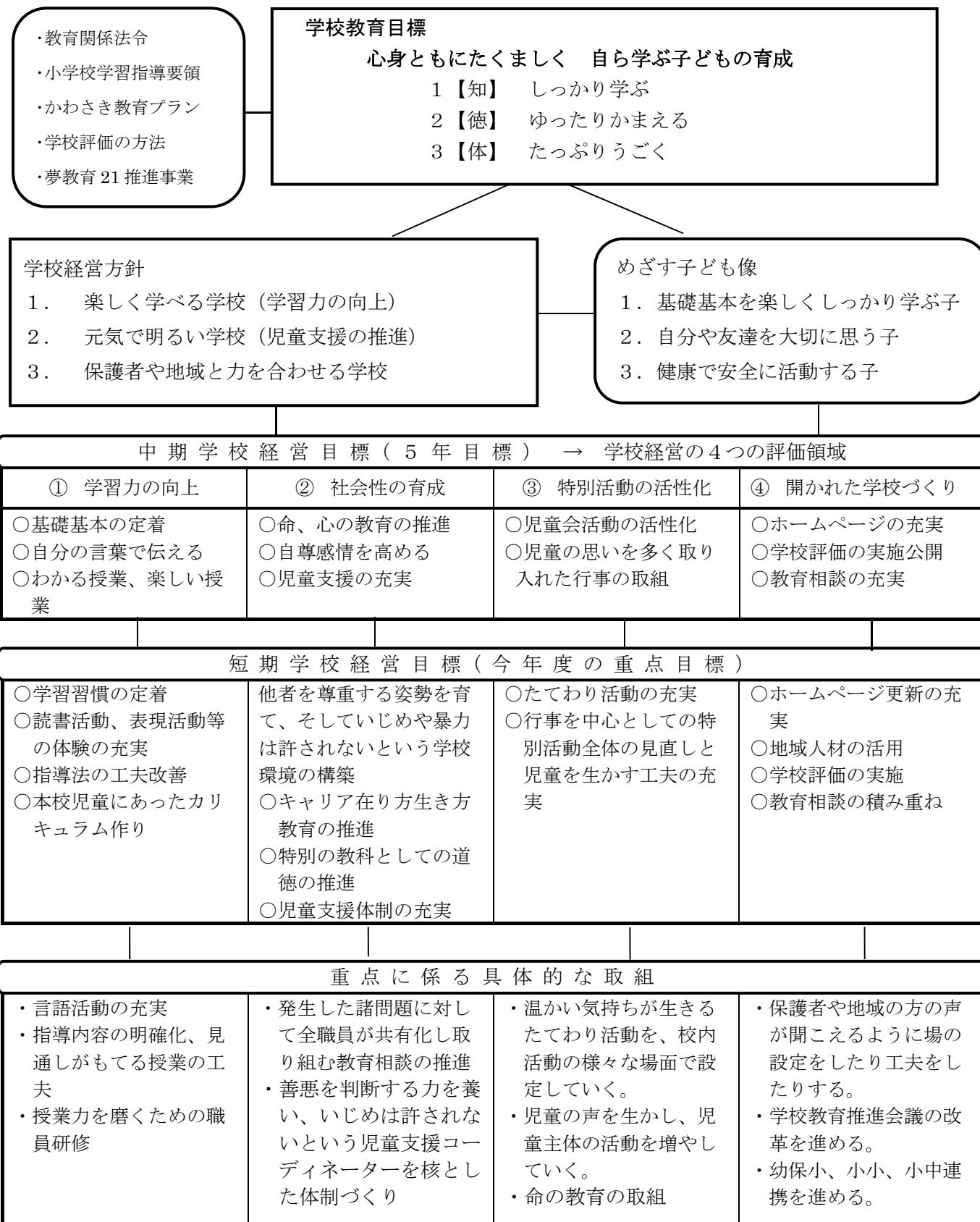


川崎市立白幡台小学校いじめ防止基本方針

1 令和4年度 学校経営計画



2 「学校いじめ防止基本方針」策定の目的

いじめはどこの学校や集団にも、どの児童生徒にも起こりうる問題であり、いじめを次に示す定義のように捉えることは、いじめの行為があったかどうかを学校が判断し、法的な責任を負うことをねらいとするものでなく、いじめられている児童生徒の救済を第一にして対応するものです。そのために、学校は一人ひとりの児童生徒との信頼関係を築きながら、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組むために「学校いじめ防止基本方針」を改訂します。

3 いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいいます。

4 学校が実施する取組

(1) いじめの未然防止の取組

いじめを未然防止するには、いじめが発生しにくい学校の風土づくりが基本となります。教職員は児童生徒の理解を深め、信頼関係を築くとともに、一人ひとりを大切にした授業を実践するように努めます。また、あらゆる教育活動を通じて、他人を思いやる心や正義を重んじる心などの豊かな人間性をはぐくみます。

① 学校体制を確立し、環境を整備します

いじめは絶対に許されないという共通認識に立ち、全教職員で児童生徒を見守っていくためには、いじめの予兆や悩みがある児童生徒を見逃さないしくみづくりや、インターネット上のいじめの防止、問題解決のための組織づくりをするとともに、相談活動がしやすい環境づくりや教職員の計画的な研修の実施など、学校体制を確立します。

② 児童生徒の心を受け止められる感性を磨き、教職員としての人間性を高めます

教職員自身が児童生徒から信頼されるよう自己研鑽し、人間性を高めるよう努力することは教職員としての基本です。児童生徒を一人の人間として尊重し、児童生徒の気持ちを理解し、児童生徒と感動を共有することができるか、自分の心が一人ひとりの児童生徒に向かって開いているか、絶えず自問します。

③ 児童生徒一人ひとりが生きる教育活動と効果的な学習活動を実践します

学校生活の大半を占める授業を「学ぶ楽しさ」が味わえる充実した時間にすることで、児童生徒は前向きに学校生活を送ることができるようになります。また、学校行事や体験活動などを工夫し、充実を図ることで他者と深く関わる経験を重ね、他者への思いやりや対人スキルを身につかせます。

④ 児童生徒の自浄力を育てます

児童生徒自身に「自浄力」を身につけさせることは、未然防止のなかでもっとも重要です。児童生徒の自主的、主体的な活動が、「いじめをやめさせたいと思う児童生徒」を育て、いじめを抑制します。自校に誇りをもたせ「自分たちの学校ではいじめは許されない」という気運を高めていきます。

(2) いじめの早期発見

いじめの発見が遅れると、いじめの内容がエスカレートするばかりでなく、関わっている児童生徒が増加して関係が複雑になり、解決が困難になります。「いじめは見ようとしなければ見えない」と言われます。深刻な事態を招かないためにも児童生徒のわずかな変化を手がかりに、

早期発見に全力を尽くします。

① 日常のきめ細やかな観察をします

普通の授業における児童生徒の顔色や姿勢、学習態度などは、児童生徒の理解を深める大切な情報です。また、授業以外のさまざまな場面での言葉づかいや行動、表情、視線、声をかけたときの反応を観察します。

② 相談体制を整備します

学校における教育相談体制を確立し、児童生徒や保護者に啓発することによって、いじめられている児童生徒や周りの児童生徒が相談しやすい環境をつくります。

③ 定期的なアンケート・チェックシートを実施します

定期的な学校生活アンケートや教職員用のチェックシート等を活用し、児童生徒の状態や指導法を客観的に把握し、いじめの早期発見につなげていきます。

(3) 校内いじめ防止対策会議の設置

校内いじめ防止対策会議（以下、「対策会議」という）は、いじめの防止等の中核となる組織として、校務分掌に位置づけ、「学校基本方針」に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正等を行います。

(4) いじめへの対処

いじめの対応を担任一人だけで行うと、解決を遅らせ事態を悪化させる恐れがあります。いじめを認知した、またはその疑いがあった時点で全教職員に周知し、多方面からの確・迅速に対応する必要があります。さらに保護者への対応についても誠意を尽くし、問題解決に向けて信頼関係と協力体制を確立します。

① 校内いじめ対策ケース会議の立ち上げ

いじめの疑いがある情報があったときには、管理職、及び児童生徒指導担当者・児童支援コーディネーター等と当該事案に関わりのある教職員で構成された校内いじめ対策ケース会議（以下「ケース会議」という）を迅速に立ち上げ、個人情報に配慮しながら、いじめに関する情報の収集と情報共有、事実確認の方法や役割分担の確認、対応方針及び支援・指導体制の決定をし、解決に向けた支援・指導を行い、保護者との連携を管理職のリーダーシップのもと組織的に実施します。また、状況に応じて当該事案の対応方針及び支援・指導体制等の見直しを行います。

② いじめられた児童生徒への支援

- もともと信頼関係ができていた教職員が対応し、「最後まで絶対に守る」という意思を伝えます。
- 児童生徒の意向を汲みながら、学校生活の具体的なプラン(登下校の方法など)を立てます。
- 心のケアや登下校・休み時間の見守りなど、安全で安心できる環境づくりに努めます。

③ いじめた児童生徒への指導

- よく事情を聞き、いかなる事情があっても、いじめることはいけないことだと教え、同じことを繰り返さないようにします。
- いじめた行為そのものは、よくないことと理解させつつ、相手に対して心身の苦痛を与えるような結果になってしまった理由を考えさせ、どこがいけなかったのか、どうしたらよかったのかを考えさせます。
- いじめに至った要因や背景を踏まえ、立ち直りに向けた相談活動や指導を継続的に行います。

④ 周囲の児童生徒への指導

- はやしたてたり、見て見ぬふりをしたりするのは、いじているのと同じだということを理解させます。
- いじめを防ぐことができなかったことを見つめなおさせ、再発を防ぐための具体的な手立て

を指導します。

- 必要に応じて学級、学年さらに学校全体に広げて再発防止へ向けた指導を行います。

⑤ 保護者への対応

- いじめに関係した児童生徒の保護者には迅速に事実を伝え、ケース会議で決定した指導方針と対応策を示すとともに、いじめ解消に向けて協力を要請します。
- 解決するまで学校が主体性を発揮し、解決後も定期的に児童生徒の学校や家庭での様子を保護者と情報交換し、経過観察を行います。

5 重大事態への対処

(1) 重大事態の意味

次に掲げる場合を重大事態とといいます。

- ① いじめにより児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- ② いじめにより児童生徒が相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

「いじめにより」とは、①②に規定する児童生徒の状況に至る要因が当該児童生徒に対して行われるいじめにあることを意味します。

①の「生命、心身又は財産に重大な被害」については、いじめを受ける児童生徒の状況に着目して判断します。例えば、

- 児童生徒が自殺を企図した場合
- 身体に重大な傷害を負った場合
- 金品等に重大な被害を被った場合
- 精神性の疾患を発症した場合

などのケースが想定されます。

②の「相当の期間」については、不登校の定義を踏まえ、年間30日を目安とします。

ただし、児童生徒が一定期間、連続して欠席しているような場合には、上記目安にかかわらず、教育委員会又は学校の判断により、迅速に調査に着手します。

また、児童生徒や保護者からいじめにより重大に被害が生じたという申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等に当たります。

(2) 事実関係を明確にするための調査の実施

学校は、重大事態に至る要因となったいじめ行為が、いつ（いつ頃から）、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景事情や児童生徒の人間関係にどのような問題があったか、学校・教職員がどのように対応したかなどの事実関係を、可能な限り網羅的に明確にします。

なおこの調査は、民事・刑事上の責任追及やその他の争訟等への対応を直接の目的とするものでないことは言うまでもなく、学校が事実に向き合うことで、当該事態への対処や同種の事態の発生防止を図るものです。

6 令和4年度 いじめ防止対策組織・役割分担

【校内いじめ防止対策会議の構成】（校務分掌に位置付ける）

校長、教頭、総括教諭、教務主任、
学年主任
児童支援コーディネーター教育相談担当、養護教諭、
スクールカウンセラー（要請による派遣）、
スクールソーシャルワーカー（要請による派遣）

【いじめ防止対策の企画・運営】

- ・学校運営（学校評価）におけるいじめ防止に関する目標の設定・検証（校長）
- ・いじめ防止対策年間指導計画の作成
- ・いじめ防止指導研修会の企画、運営
- ・いじめ問題に関する資料の管理）
- ・道徳教育との連携
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し・・・（校内いじめ防止対策会議）

【教育相談】

- ・教育相談のねらい・年間計画の作成
1年 2年 3年 4年 5年 6年 特別支援級（学年主任）
- ・相談室窓口、相談室の管理、運営・・・・・・・・・・・・・・・・（教頭、Co）
- ・スクールカウンセラーとの連携・・・・・・・・・・・・・・・・（教頭、Co）

【児童・保護者・地域との連携】

- ・PTA校外委員会との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（校長、教頭、担当）
- ・地域教育会議との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（校長、教頭 担当）

【関係機関との連携】

- ・警察との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（校長、教頭、担当）
- ・家庭センター（児童相談所）との連携・・・・・・・・・・・・・・・・（校長、教頭、担当）

7 令和4年度 いじめ防止等対策年間計画

月	活 動 内 容 (校内いじめ防止対策会議・児童生徒指導部会・職員会議等)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針・重点目標の確認 ・構成員の確認・役割分担 ・年間指導計画の作成と確認 ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応方法などについての研修 ・かわさき共生*共育プログラムの取組についての確認 ・教育相談(随時) ・各学年の緊急の取組などの確認(打ち合わせにて、週1回) ・各学年の状況報告と指導経過、今後の方針についての確認(人権、児童指導、共生*共育、特別支援教育、道徳指導教科部会にて、毎月1回) ・1年生を迎える会の実施(たてわり活動の一環) ・授業参観・懇談会 ・地域巡視週間の実施(希望者からは教育相談を受ける)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・運動会に向けての各学年での活動推進 ・通級指導教室職員と担任との情報交換 ・携帯・スマートフォン教室実施 ・効果測定の実施 ・いじめ防止標語の募集(生徒会本部・生活委員会)・ポスター制作 ・個人面談の実施(全家庭対象)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・第1回学校生活アンケート実施に向けた内容検討・実施 ・学校生活アンケート集約および結果を受けての対応についての取組 <p>【児童生徒指導点検強化月間】の取組</p> <p>→効果測定をもとにして共生*共育プログラムを実施したり、道徳や学級活動の授業の組み立てや児童支援委員会の運営を進めたりしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援巡回相談の実施：川崎市総合教育センター指導員 ・学校教育推進会議の実施(6、2月の2回実施) ・CAPプログラムの実施
7	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・なかよし給食(たてわり活動で計画) ・4年ふれあい活動(地域の敬老会との交流) ・幼保小交流(1年生と初山幼稚園・はなみずき保育園) ・夏休み期間中の対応の確認
8	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 ・いじめ防止対策に関する研修 ・児童支援教育に関する校内研修 ・サマーキャンプ(ダディサポーター主催：2日間：6年生希望者) ・小中3校交流(合同研修会)

9	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 前期の反省のまとめと後期の具体的な取組の確認 あいさつ運動週間の実施（児童会活動）
10	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 第2回学校生活アンケート実施に向けた内容検討 学校生活アンケート集計について
11	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 学校生活アンケート結果を受けての対応について オープンスクール（学校公開日：人権週間）で、各学級が必ず道徳、共生＊共育プログラムを公開する。
12	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 個人面談の実施（全家庭対象） 今年度の反省→学校評価への反映を少し早目に行い、今年度の活動にも生かすようにする。
1	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 第3回学校生活アンケート実施に向けた内容検討 児童支援教育に関する校内研修
2	<p>【学校体制振り返り月間】の取組</p> <p>→本年度に行った効果測定及びQ-Uの結果を見直し、効果的だった手立てなどについてまとめた内容の共通理解を図る。更に、そこから次年度の活動内容についての見直しを行いつつ3月や次学年にもつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 学校生活アンケート結果を受けての対応について 小小交流の実施（犬蔵小学校と5年生が交流する。） 幼保小交流（1、5年生と、初山幼稚園、はなみずき保育園が交流する。） 小中交流（犬蔵中学校と互いの学校の授業参観と協議を行う。）
3	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の状況報告と指導経過・今後の方針についての確認 来年度に向けての基本方針の見直し 6年生を送る集いの実施（たてわり活動）

※新型コロナウイルス感染症予防対策をしっかりと講じた上で実施できる活動を行っていく

◎本校のいじめ防止に向けた取組

児童の自主的な取組

[自主的な企画・運営]

- ・集会での呼びかけ
- ・運営委員会による自主的なあいさつ運動
- ・たてわりグループによる異学年交流

[交流活動の活性化]

◎たてわり活動

- なかよし給食
- ペア学年での交流
 - ・ 1、2年生学校たんけん
 - ・ 6年生による1年生に対する兄弟学年としての活動
(給食、清掃、朝の支度、休み時間、行事のサポートなど)

◎委員会活動

- ・ 給食委員会アンケート
- ・ 保健委員会の環境衛生にかかわる見守り活動
- ・ 運営委員会によるあいさつ運動

◎特別支援学級との交流

- ・ 1、2年生学校たんけん
- ・ 全学級・学年とのミニ集会での交流

◎幼保小中連携活動

- ・ 犬蔵小学校との交流会（5年生）
- ・ 近隣幼稚園、保育園との交流会（1年生、5年生）
- ・ 犬蔵中学校との運動会交流、授業参観交流
- ・ 犬蔵中学校体験入学（6年生）

◎地域団体との交流活動

- ・ 地域の敬老会との交流（4年生）
- ・ 地域教育会議での取組（子ども会議、講演会など）

[啓発活動]

- いじめ防止標語やポスターの作成
- 共生＊共育プログラム
 - ・ オープンスクールなどでの授業公開

校内支援体制確立への取組

- 児童支援コーディネーターの活動の広がりへの検討
- 情報の共有や支援方法などの検討や確認
 - ・ 児童支援・特別支援（校内委員会）部会 ケース会議 職員会 学年会など
- 学校生活アンケートの実施と児童からの聞き取り
- 効果測定やQ-Uなどの諸検査結果に基づく、いじめ防止へ向けての取組
- 教育相談、個人面談などを通しての保護者との連携強化
- 外部機関との連携
- 必要に応じた、職員による登校指導

保護者の取組（PTA 活動）

- ・ 広報紙での呼びかけ
- ・ 盆踊りやお祭りでのパトロール

地域住民の取組

- ・ 地域での見守り活動
- ・ 地域教育会議、学校教育推進会議、学校安全推進会議での取組